

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		管理栄養学科		
科目名称	栄養教育各論Ⅰ						授業形態		講義	
科目コード	302900	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	原口 直樹								ICT活 用	○
授業概要	本授業では、個人および集団の健康・栄養課題を解決するために必要な栄養教育マネジメントについて学修する。栄養教育マネジメントサイクルに沿って、アセスメント、目標設定、計画立案、教材・媒体の選択、栄養カウンセリング、実施体制の整備、評価およびフィードバックに関する基礎的な知識と方法を修得する。【態度・志向性の育成】 また、科学的根拠と対象者の生活背景、価値観、行動特性を踏まえた栄養教育について、事例検討、グループディスカッション、教材分析およびロールプレイを通して実践的に学ぶ。これにより、対象者を尊重し、多職種や関係機関と連携しながら栄養教育を計画・実施・評価するための基礎的能力を養う。 本科目で修得した知識と技能は、3年次の「栄養教育各論Ⅱ」および「栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ」において、ライフステージ・ライフスタイル別の栄養教育や実践的な支援技術へ発展させる。【生涯学習力の育成】									
関連する科目	「栄養教育総論」で学修した行動科学、行動変容理論および栄養カウンセリングの基礎を踏まえて授業を進める。本科目の履修後は、「栄養教育各論Ⅱ」および「栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ」を履修し、対象特性に応じた栄養教育の計画・実施・評価へ発展させることが望ましい。									
授業の進め方 と方法	授業は講義を基本とし、事例検討、グループディスカッション、ペアワーク、教材・媒体の分析および栄養カウンセリングのロールプレイを取り入れたアクティブラーニング形式で行う。 授業内容の理解と定着を図るため、各回の授業終了後に「理解度確認問題」を実施する。理解度確認問題は、重要語句を確認する穴埋め問題および管理栄養士国家試験を想定した択一問題で構成する。実施後に正答と解説を提示し、学生が理解不足の内容を確認して復習できるようにする。 講義資料の提示、理解度確認問題、教材・媒体の分析等にICTを活用し、必要に応じてデジタル教材やオンライン資料を用いて栄養教育の方法を検討する。 授業で取り扱う事例については、担当教員の病院における栄養管理・栄養指導の実務経験ならびに行政・教育機関・企業等との共同事業の経験を活用する。理論と実践を関連づけながら、対象者の課題把握から計画、実施、評価に至る過程を体系的に学修する。【汎用的技能の育成】									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション「栄養教育の目的と栄養教育マネジメントの必要性」 栄養教育の目的、管理栄養士の役割、本授業の到達目標および栄養教育マネジメントの全体像を理解する。									
授業計画 【第2回】	「栄養教育マネジメントサイクル」 アセスメント、計画、実施、評価、フィードバックの関係を理解し、事例を用いて一連の流れを整理する。									
授業計画 【第3回】	「栄養教育のためのアセスメント①」 アセスメントの意義・目的・種類を理解し、身体状況、食生活、行動、心理および社会・環境的要因を全人的に把握する必要性を学ぶ。 実践例を基に理解する。									
授業計画 【第4回】	「栄養教育のためのアセスメント②」 面接、質問紙、観察、食事調査等の情報収集方法と特徴を理解し、対象と目的に応じた方法を選択する。 実践例を基に理解する。									
授業計画 【第5回】	「栄養教育計画①」 アセスメント結果を統合して健康・栄養課題を抽出し、優先順位を設定する方法を学ぶ。									
授業計画 【第6回】	「栄養教育計画②」 学習目標、行動目標および成果目標の違いを理解し、具体的で評価可能な目標を設定する。									
授業計画 【第7回】	「栄養教育計画③（カリキュラム立案と指導計画）」 目標、学習内容、学習方法、教材、時間配分および評価方法を関連づけ、指導計画を立案する。									
授業計画 【第8回】	「栄養教育の方法①」 個別学習、集団学習、体験学習等の特徴を理解し、対象者の特性と学習目標に応じた学習形態を選択する。									
授業計画 【第9回】	「栄養教育の方法②」 教材・媒体が対象者の理解、動機づけおよび行動変容に果たす役割を理解する。実際の教材を分析する。									
授業計画 【第10回】	「栄養教育の方法③」 印刷物、実物、模型、視聴覚教材およびデジタル教材の特徴を比較し、対象・目的に応じた教材・媒体を選択する。									

授業計画 【第11回】	「栄養カウンセリング①」 栄養カウンセリングの意義とカウンセリングマインドを理解し、対象者を尊重した支援者の基本姿勢を学ぶ。 実践例を基に理解する。
授業計画 【第12回】	「栄養カウンセリング②」 傾聴、受容、共感、質問、要約等の基本技法を学び、事例を用いたペア・ロールプレイを行う。
授業計画 【第13回】	「栄養教育の実施（栄養教育の体制づくり、栄養教育の実施方法）」 栄養教育を実施するための人材、時間、場所、予算、連携体制およびリスク管理について理解し、実施計画を検討する。
授業計画 【第14回】	「栄養教育の評価①（栄養教育マネジメント評価、評価デザイン）」 企画評価、経過評価、影響評価および結果評価の違いを理解し、目的に応じた評価指標と評価デザインを設定する。
授業計画 【第15回】	「栄養教育の評価②・総括（結果のフィードバック、総合評価）」 評価結果の解釈とフィードバック、計画改善への活用方法を理解し、栄養教育マネジメントサイクル全体を事例に基づいて総括する。
授業の到達目標	授業終了時に、学生が以下のことをできるようになることを目標とする。 1. 栄養教育および栄養教育マネジメントの意義を説明できる。【知識・理解の育成】 2. 栄養教育マネジメントサイクルの各段階と相互の関係を説明できる。【汎用的技能の育成】 3. 対象者の健康・栄養・食行動・心理・社会環境に関する情報を整理し、健康・栄養課題を抽出できる。 4. アセスメント結果に基づき、評価可能な学習目標・行動目標を設定できる。 5. 対象者と目標に応じた学習形態、教材・媒体および支援方法を選択できる。 6. 栄養カウンセリングの基本姿勢と基本技法を、事例やロールプレイで示すことができる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	各回の授業前に、教科書の指定された範囲を読み、重要語句の意味を確認する(30分)。さらに、提示された健康・栄養課題に関する資料または事例を読み、対象者の課題や必要な支援について自分の考えを整理する(30分)。
授業時間外学習【復習】	授業内容について、教科書および配布資料を用いて要点を整理し、授業後に提示する穴埋め問題と管理栄養士国家試験を想定した択一形式の「理解度確認問題」に取り組む(30分)。誤答した問題については、教科書や講義資料で根拠を確認し、正答だけでなく他の選択肢が誤りである理由を説明できるようにする(30分)。
課題に対する フィードバック	理解度確認問題は、提出後に正答および解説を提示する。特に正答率が低かった内容については、次回の授業冒頭で補足説明を行う。中間試験・定期試験については、試験終了後に全体の模範解答を配布する。
評価方法・基準	以上の結果を総合して評価する。 1) 定期試験60点□栄養教育マネジメントに関する知識・理解と応用力 2) 中間試験80点□アセスメント、目標設定および計画立案に関する理解 3) 事例課題・演習20点 課題分析、計画立案、教材選択および評価方法の適切性 合計100点
テキスト	『管理栄養士講座 栄養教育論 第3版』中村丁次・外山健二・笠原賀子 編著 健帛社(4180円、「総論」共通)
参考書	『改訂マスター栄養教育論』逸見幾代・佐藤香苗 編著 健帛社 健康・栄養科学シリーズ『栄養教育論』丸山千寿子・足達淑子・武見ゆかり 編集 南江堂 『行動変容のための面接レッスン 行動カウンセリングの実践』足達淑子著 医歯薬出版 『ライフスタイル療法! 第4版 生活習慣改善のための行動療法』足達淑子著 医歯薬出版
備考	担当教員は、医療機関において病弱者に対する栄養管理および栄養指導に従事した実務経験を有する。実際の栄養指導における情報収集、課題抽出、目標設定および指導計画の事例を取り扱う。第11・12回では、対象者との面接場面を想定した栄養カウンセリングを行う。 また、行政・教育機関および企業等との共同事業・研究経験を活かし、集団を対象とした教材・媒体の選択、事業の実施体制ならびに